



## 平成 27 年特別展総括



当館では、2015年（平成 27）11月4日から 27 日まで「戦後復興への道のり—吉田茂・鳩山一郎—特別展」を開催した。

戦前、外交官として活躍し、戦後は政治の表舞台に登場して日本の独立回復に中心的役割を担い、5 度にわたって内閣を組織した吉田茂。戦前から長く議会人として歩み、戦後は公職追放や病を乗り越えて再起し、吉田内閣総辞職後、内閣を率いた鳩山一郎。激動の時代にあって、2 人はある時は通じ、ある時は反目しながらも日本のより良い未来のため、己の信ずる道を進んでいった。

戦後 70 年に当たる今年、1939 年（昭和 14）の第二次世界大戦の勃発から敗戦後、占領下から独立を回復し、保守合同を経て高度経済成長期を迎えるまでの歩みを、吉田茂・鳩山一郎という 2 人の傑出した人物に焦点を当てながら、関係資料によって紹介した。

展示構成は、今回の特別展の概要を映

像にまとめて紹介する「憲政史シアター」、続いて、文書や写真などを中心に構成するコーナーを設け、①「それぞれの道」、②「敗戦から立ち上がって」、③「もはや戦後ではない」の 3 つの時代に分けて、各時代の諸相を辿り、その過程で両氏がどのような活動をしてきたかを紹介した。この他、特設展示として「それぞれの 8 月 15 日」では、終戦の詔勅を音声で視聴出来るブースを設けるとともに、当時、様々な立場にあった日本人がその報せにどのように接したかを、日記や手帳から辿った。同時代に活躍した政治家が遺した色紙を展示した「激動昭和の群像」では、政治家が遺した色紙を展示すると同時に、彼らと吉田・鳩山両氏とのエピソードを紹介した。また、



「音声アーカイブズ」として、当館で所蔵している吉田・鳩山の音声を聴くことができるブースを併せて展示室に設置した。

吉田・鳩山の生涯を辿る「宰相の風貌」「素顔の吉田茂・鳩山一郎」では、2人の人物像により深く迫るため、遺品などを豊富に展示し、また家系図、写真などを配した。

今年も1万人を超える多くの参観者を得て、無事に会期を終了することが出来た。ご来館いただき、感謝申し上げます。そして、ここに至るまでに多大なるご協力をいただいた資料提供者をはじめ、関係者の方々に重ねて心よりお礼申し上げます次第である。

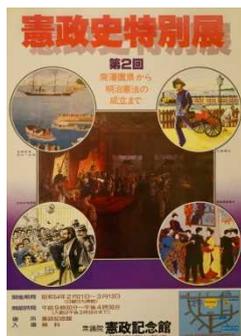
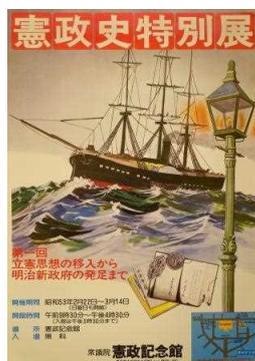


## 常設展企画展示のご案内

1970年（昭和45）、憲政記念館が産声をあげたのと同時に特別展は始まった。今までの特別展の歩みを、展示されたポスターや館蔵資料によって振り返る。

### 1階中央ホール

「ポスターで振り返る過去の特別展」



### 2階展示室（壁面コーナー）

「館蔵資料で振り返る過去の特別展」



伊藤博文・山県有朋寄書



絵画 原敬肖像

洞田天涯画

～3月30日（水）まで

憲政の十傑 一犬養毅一



[国立国会図書館所蔵]

【略歴】

1855 年(安政 2)、備中国庭瀬の大庄屋の次子として出生。慶應義塾中退。1877 年(明治 10)、西南戦争に新聞記者として従軍。

1882 年の立憲改進黨創設や、大同団結運動に参加。1890 年、第 1 回衆議院議員総選挙に立候補し当選、没年まで 19 回連続当選。大正期は、2 次にわたる憲政擁護運動で活躍。第 1 次大隈内閣、第 2 次山本内閣、加藤高明内閣に入閣。立憲国民党や革新倶楽部を率い活躍。一時政界を引退するが、1929 年(昭和 4)、田中義一立憲政友会総裁逝去後、推されて総裁に就任。1931 年、大命降下により自らの内閣を組織するが、翌年、首相官邸において海軍将校らの凶弾に斃れた(五・一五事件)。

【憲政において果たした功績】

大正期、薩摩の山本権兵衛が内閣を組織する際、犬養毅に入閣を打診。周囲の誰もが断ると踏んでいたが、犬養毅は、「うむ、入ろうじゃないか」と言う。理由を聞かれ、犬養毅は「普通選挙をやってしまおうじゃないか」と平然と言ったのける。犬養毅宿願の普通選挙法(※普通選挙法)は、護憲三派内閣で実現するが、犬養毅は、普通選挙法の運用が肝心であると自戒。「吾輩は国会開設以来、藩閥と戦ひ来つた苦き経験に顧みて、新に選挙権を得る一千万人の国民を善導することの極めて肝要な

ることを痛感せざるを得ない。若し之に処するの途を過つたならば、国家の発達の上に少なからざる損失を招く結果となるであらう」と革新倶楽部の同志を戒めた。普選を通じて結集される国民の力を国力伸長、多端な内外情勢の打開に繋げるよう導くのが政党人の役割であると強調、同志の奮起を促した。

【エピソード】

ともに「憲政の神様」と称せられた尾崎行雄は、犬養毅のことを「犬養毅君とは、私は兄弟の如くして政治界に久しく立つて居つた」とし、帝国議会での出来事を懐旧する。議会の本会議で、政府攻撃の大論戦後、採決に入り、同志の中村弥六君が議場閉鎖で締め出され、肝腎な投票に参加できなかった。犬養毅は中村に向かって「オイ、幾ら取つた」と、政府から賄賂をもらって投票に参加しなかったが如く冗談をいった。身に覚えのない中村は、猛然と犬養毅の胸座をつかみ、拳固で殴りつけたが、犬養毅は「許せ、悪かった、悪かった」といいつつも、中村の打撃に抵抗しなかった。これをみて尾崎は、「拳固で殴るのは不都合だ。私ならその場合に於ては抵抗したと思ひます。無抵抗のままで居ることは確かに死生の間に談笑することが出来る人だと感心しました」と、犬養毅の人品骨柄に畏敬の念を抱いたという。(尾崎行雄『近代怪傑録』)

※普通選挙法…1925 年(大正 14)に改正された衆議院議員選挙法を指し、この法改正で、これまでの選挙権の納税資格による制限要件が撤廃され、男子満 25 歳以上に選挙権が与えられる男子普通選挙制が採用された。

## 来館者紹介

憲政記念館は、1 年を通じて個人の他、自主研究グループや添乗員と一緒にツアーリストといった団体等、大勢の皆様に来館いただいている。そして、展示室参観の後には、四季折々豊かな彩りの庭園の散歩も楽しまれていかれる。庭園には、代表格の桜とハナミズキの他、ナンジャモンジャ、楷の木、ハンカチの木などがあり、都会のオアシスと親しまれている。

また、社会科見学や修学旅行などにより小中高の学生が全国各地から来館している。学校の先生方、旅行社・日本移動教室の担当者からの予約の連絡はもとより、時には「グループ行動学習で行きたいのですが」と中学生のリーダーから電話をいただくこともある。昼食時に、庭

園でお弁当を食べている皆様の笑顔が印象的である。

11 月には遠く静岡県掛川市から、和田岡小学校の生徒たちが来館し、同市内の「和田岡古墳群」に関する詳しい手作りリポート（「和田岡古墳へようこそ」「和田岡古墳群」「今知る和田丘小の歴史と和田岡古墳群」）を頂戴した。特別展を機に交流を深めることができ、嬉しい限りである。



### < 編集後記 >

10月1日付をもちまして編集を担当することになりました若林です。少しでも当館に興味を持っていただけるよう様、魅力ある紙面作りに努めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

さて、今回は冬号ということで、冬に因みますと、私は「冬は必ず春になる」という言葉が大好きです。解釈はいろいろあるでしょうが、私は冬に頑張ったものが暖かい春を迎えることができるという意味に捉えています。この号が、発行される頃には秋の特別展も終わっているでしょう。この冬は特別展の反省点を検討することによって力を蓄え、春に次期特別展を芽吹かせ、実りの秋になるよう館員一同頑張っていきたいと思っております。 (若林)

【発行人】 鹿村謙太郎

【印刷・発行】 衆議院事務局 憲政記念館

【編集責任者】 高橋耕一

〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-1-1

【編集長】 若林智伸

TEL : 03-3581-1651 FAX : 03-3581-7962